

博士論文の審査結果の要旨

専攻	保健医療学専攻	分野	福祉支援工学分野
学籍番号		院生氏名	小林宏気
通学キャンパス			
論文題目	商品企画担当者と福祉用具専門相談員が重視する福祉用具貸与利用者の情報に関する研究		
審査結果 (枠で囲む)	合格		不合格
<p><審査結果の要旨></p> <p>福祉用具の有効活用は、高齢者の自立支援と介護負担軽減、介護人材不足解消および事故防止のために喫緊の課題である。本研究の目的は、福祉用具の企画開発を行う商品企画担当者と具体的な機種選定に関わる福祉用具専門相談員を対象に、福祉用具貸与利用者に関して重視する情報を調査し両者の違いを明らかにすることを目的とした。商品企画担当者、専門相談員ともに先行研究の分析とインタビューを行って質問項目の検討を行い、国際生活機能分類（ICF）の概念に基づいた質問項目を決定した。調査項目は商品企画担当者 32 問、専門相談員 30 問で、そのうち、23 問が共通した質問であった。本研究は本学倫理審査委員会の承認を受けて実施した。</p> <p>回答数は商品企画担当者 124 件（有効回答率 17.4%）、専門相談員 109 件（有効回答率 36.3%）であった。結果より、専門相談員は ICF の構成要素（心身機能・身体構造、活動、参加、物理環境因子、人的環境因子、個人因子）のすべてを重視していたが、商品企画担当者はこれらのうちの人的環境因子、個人因子を重視していないことが明らかになった。さらに、商品企画担当者は、今後は上記項目を重視したいと考えていた。これらの結果より、今後は商品企画担当者と専門相談員間の連携が必要であり、具体的な手段として福祉用具貸与計画の活用および貸与計画データベースの構築について提言を示した。過去に、福祉用具の商品企画担当者と専門相談員が利用者の全体像についてどのような情報を重視しているかを調べた研究はなく、本研究は福祉用具による利用者の QOL の向上、事故防止、介護保険制度の持続可能性につながる意義のある研究である。</p> <p>審査会は 7 月 23 日と 8 月 27 日に実施した。1 回目の審査で、論文全体の論理が不明瞭、なぜ改革が必要か伝わってこない、統計の手法の間違いなどが指摘された。大幅な修正が行われた後、2 回目の審査会においては福祉用具業界の状況説明についての加筆が求められた。最終的に提出された論文は指摘事項にしたがって修正がなされていると判断した。口頭試問においても適切に応答した。以上の結果から、審査会の審査員全員は本論文の著者に博士（保健医療学）の学位を授与するに十分な価値があるものと認めた。</p>			
論文審査担当者	<p>主 査 山本澄子</p> <p>副 査 水巻中正</p> <p>副 査 梅宮敏文</p>		